

年中だより

自分の思いを出しながら、先生や友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる

「お客さん、唐揚げも好きかな？」



「ポテト屋さんだけど唐揚げもあつたらいいかも」と思いついたことを先生に教えてくれました。友達と関わるきっかけになればと思い、「それ素敵だから、友達にも教えてあげようよ」と先生が言うと、走って友達に言いに行きました。すると、友達も「面白そう！一緒にいれて」と仲間に加わりました。「(お客さん)来てくれるかな？」「売り切れたらどうする？」と、友達と関わりながら遊ぶことを楽しんでいます。

「小さい組さん、いらっしやい！！」



売れるかドキドキで待っているとお客さんがたくさん来てくれました。「おいしいね」「おかわりありますか？」とニコニコしている年少さんを見て満足げな子どもたち。「今日は売り切れだからおしまいになった」とうれしそうに先生に言いに来ました。自分の作ったものが友達に喜んでもらえるうれしさが次の遊びにつながっていきます。

「何味がいいですか？ジュースもありますよ！」



「お店をやりたいけど一人じゃできない」とある子が言う。「じゃあ私が手伝うよ」と、友達とのつながりが生まれました。子ども同士でぼんぼん話が進んでいくため、そばで見守っていました。「ジュースも頼めるかき氷やさんにしよう！」「じゃあ、こぼさないようにお盆でもってこうね」と、友達と話をしながら素敵なお店が出来上がっていきます。友達と一緒に思いを出しながら遊ぶことを楽しんでいます。

「小さい組が泣かなくてよかったね」



友達がお店屋さんごっこをしている様子を見て金魚すくいをやりたくなった子もいました。「ぺらぺらじゃない魚にしよう！」「じゃあこれ(ロール芯)いいんじゃない？」と話ながら作っていました。金魚すくいが完成し、いざ、年少組のお客さんと呼んでみると年少さんには難しいかなと思っていたのにどんどん魚が釣られていく様子を見て、びっくりする子どもたち。でも友達同士で顔を見合わせて「小さい組が泣かなくてよかったね」とうれしそうにしてました。実は、年少さんが楽しめるように、ぼいの大きさにこだわって作っていたので、目的が達成されてうれしそうでした。今後も、思いを出しながら先生や友達と遊ぶ楽しさを感じられるように関わっていきたいと思います。

虫などの自然物に興味をもって遊ぶ

バナナを潰して木に塗るの！クワガタ来るかな



どこに塗ったらクワガタ来てくれるかな？



一学期、クワガタが一匹ではかわいそうという子どもたち。「クワガタを探しに行こう」と、園庭のあちこちを学級の皆で探していました。ある子が夏休み中に捕まえる方法を考えて「クワガタはバナナが好きだよ」と教師に伝えました。教師が、その子が他の子どもたちにも伝える時間をつくると、「皆でしてみたい！」となったため、潰したバナナを木に塗ることにしました。「うわああ。ぐちょぐちょになってきた」「こんなに潰したよ」とバナナを潰すことを楽しんでいました。誰かが言葉にしたことを皆で取り組む姿が素敵です。

潰したバナナを持って木に移動すると、「バナナ落ちちゃう！」と言いながら、どこに塗ったらしっかり木に塗れるか考えていました。「僕ここにたくさん塗ったよ。クワガタ来てくれるかな？」「私のは美味しいのよ」とクワガタが来てくれることを楽しみにしながら話していました。

「あれ？なんか音が聞こえるよ」



「ここから聞こえるよ！」



一人の子が「みんな！ウィーンって聞こえるよ」と周りの友達に知らせると、「どれどれ？」と言って耳を傾けていた子どもたち。何がいたのでしょくか？

「ここにいるかもしれない」と言ってスコップで穴を掘り始めました。すると、コオロギが二匹いました。「僕が捕まえる」「私も欲しい」と言いながら皆で二匹しっかりと捕まえていました。このように繰り返し遊ぶ中で、遊びが広がっていく楽しさを今後も感じられるように関わっていきたいと思います。また、これからも身近な自然に興味をもって遊ぶことも大切にしていきたいです。